



2023年1・2月号

号外
2023
1

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
✉ uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「上町台地」名所図会

第3回
八軒家浜
(中央区)

寺田屋事件や鳥羽伏見の戦いなど、幕末の京都・伏見は歴史の重要スポットでした。それは伏見が大坂への窓口だったからであり、多くの志士が船で淀川を上り下りしました。その船が着いた先が八軒家浜。ここからさらに薩摩や長州、土佐などに向かったのです。八軒家浜も志士たちが駆け抜けた場所でした。

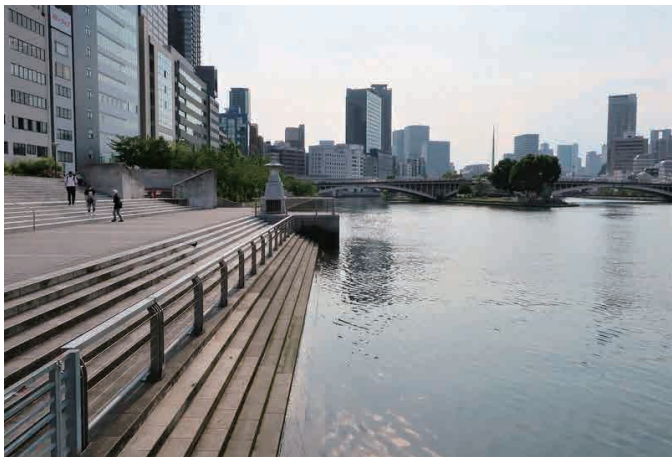
このあたりには古代、難波津、渡辺津と呼ばれる大きな港があったとされます。その後、熊野街道の起点となり、平安期には熊野神社に詣でる貴族たちが船から降り立ちました。江戸期に入るとさらに人の往来が盛んになって、三十石船（全長約17メートル）による船便が整備されます。八軒の船宿があったことから、いつしか八軒家浜と呼ばれるようになったようです。

ちなみに、下りの船は川の流れのままですが、上りはほとんどの場所を人が綱を引いて運んだそうです。そのため、上りと下りでは料金に倍以上の差があったといいます。

昭和に入って浜は埋め立てられて道路となり、いまは土佐堀通沿いに碑が残っています（写真右）。しかし、平成になって大川沿いに棧橋が整備され、水上バスや遊覧船が接岸できるようになりました。新たな「八軒家浜」から天神橋に続く遊歩道は、いまや絶好のデートスポットでもあります。志士たちが見た景色とは様変わりですが、それでも川面と船着場から見える風景が人々の心を和ませてくれるところは、幕末もいまも、そして100年後もきっと変わらないことでしょう。



土佐堀通沿いに碑を残すのみ



八軒屋浜は京都への玄関口だった

中原文雄／写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「WEBうえまち」(<https://note.com/uemachi/>)連載の「『上町台地』名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。



相羽秋夫の

らくご
ハローワーク

第13職 甘い汁吸うのはいつも『ぜんざい公社』

ぜんざい屋が公社（公共企業体）になった。物見高い男が訪れると、店内には、「君が代」が静かに流れ、国家公務員の女性店員が、本人確認ができる証明物を出せ、と迫る。ぜんざいの中に入れる餅を焼く場合は消防署の許可を、生で食べる時は健康診断が必要、と別の階にある窓口で足を運ばせ、おまけに手数料まで払わせる。

煩雑な手続きの末に、やっとぜんざいにありつくが、小豆（あずき）や餅はあるが、かんじんの汁がない。男が抗議すると店員、おごそかに「当方は役所です。甘い汁は先に吸うてます」。

◇ ぜんざいには、良きかなの意味がある善哉の字を当てる。甘い物を口にするに誰でも至福を覚える。つい口について出る言葉が善哉というわけだ。すしと言うと、関東



では握り鮓、関西では押（箱）鮓を指すように、ぜんざいも東西で微妙な差がある。関東では餅や白玉に濃い餡（あん）をかけたものだが、関西はつぶし餡の汁粉（しるこ）のことである。

その汁粉にも、いくつかの種類がある。まず、こし餡の御前（ごぜん）汁粉、つぶし餡の田舎汁粉、こし餡に砂糖煮の小豆を加えた小倉汁粉、さらには湯を注ぐだけの乾燥させたさらし餡の懐中（インスタント）汁粉もある。

昭和初期の小説家、織田作之助は大阪の下町風情を描いた『夫婦善哉』で世に出た。ミナミのシンボル、水掛不動尊のかたわらには、今もぜんざい屋がひっそりとした佇まいを見せている。甘いものの口直しには、大阪名物の塩昆布が付く。これに見習い、松竹新喜劇の藤山寛美は、笑わすためには泣かすことだと、泣き笑いの人情喜劇を完成させた。

落語のタイトルの基になった「公社」は国有鉄道・タバコ専売・電信電話の3事業体だが、すべて民営化された。古典の改作であったこの噺も、すっかり古典化した。

NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL:06-6779-7222

住まいと暮らしの
無料相談会

弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士の当法人会員が専門知識を生かし、「暮らしの困った」のご相談に応じます。

2023年1月・2月は、定例開催場所の市立社会福祉センター会議室が改装工事のため当法人・事務所随時対応します。電話もしくはHPよりお申し込みください（電話受付は平日10～15時）。3月より再び、原則第2土曜日に定例開催します（午前10～12時。市立社会福祉センター天王寺区東高津町）。

主催：NPO法人まち・すまいづくり
（市立社会福祉センター指定管理者）
電話：06-6779-7222
場所：大阪市天王寺区勝山1-11-29
（四天王寺 東大門前）
後援：天王寺区役所

「風づくりと

風あげ」イベント

大阪歴史博物館との共催で、「風づくりと風あげ」イベントを1月28日（土）に開催します（13時30分～16時30分、博物館研修室、参加費無料、先着20組、要予約）。馬場町は昔から風あげの名所として有名です。遊びを通して大阪の風の歴史にふれてみてください。申込みは大阪歴史博物館HPより。

第40回うえまち寄席

3月11日（土）14時開演

桂佐ん吉、桂ちようばによる、上方落語発祥の地・上町台地にふさわしい、古典を中心とした落語会です。電子チケット販売サイト「TIGET（チケット）」からも予約可能です。

場所：一心寺南会所天王寺区逢坂2-7
入場料：2000円

ういまち

2023年1・2月号

号外
2023
2

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
✉ uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「上町台地」名所図会

第4回

万代池
(住吉区)

大阪が「八百八橋」と呼ばれた「水の都」であったことはよく知られています。しかし、川は埋め立てられ、橋もずいぶん少なくなりました。それでも大川があつて、道頓堀川も流れています。「都会の中心に水辺があるのは大阪の財産だ」とある評論家は言いましたが、水辺は都市の財産、オアシスです。気持ちを和ませてください。

万代池などは、その都会のオアシスの最たるものでしょう。周囲728メートル。桜の名所として知られ、春は花見客でにぎわいます。冬は渡り鳥目当てに、野鳥ファンが集うそうです。

台地にあつた谷をせき止めつくられたといわれていますが、はつきりしたことはわかりません。池に棲みついた魔物を、聖徳太子が四天王寺より僧を遣わし調伏した、という伝説も残っています（その魔物を封じ込めたのが、池の真ん中の島にある古池龍王の塚。左の写真です）。

そんな万代池ですが、周辺で多くの教育機関が生まれたことはあまり知られていないようです。大阪府立大を経て大阪公立大となった大阪女子大学は半世紀にわたり拠点を置きました（右の写真がその跡地。関西外国語大学も実は発祥はこの地で、移転先の枚方キャンパスに「万代池」という名の池までつくりました。水辺と文化——この2つには親和性のようなものがあるのでは。そんなふうにも思えるのです）。



池の周囲では教育機関が育った



聖徳太子にまつわる話も伝わる

中原文雄／写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会（ずえ）とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「WEBういまち」(<https://note.com/uemachi/>)連載の「上町台地」名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。



相羽秋夫の

らくご
ハローワーク

第14 職 『浮世床』世間の憂さの捨て所

やき〱頭の中央を半月形に削ること）が一般的になり、職業とする者が現れた。江戸期に入ると、簡略な飯店で営業したので床と呼ばれるようになる。江戸・大坂・京都では、橋詰や辻に床をかまえた。道具を持って顧客をまわる者もあった。江戸では、番所に床をもうけて番役も代行した。さらに橋の見張番や火事の際に役所に知らせる役まで課せられていた。

女性の髪を結う女髪結が出現したのは遅く、風紀を乱すとの理由で禁止されたこともあったが、幕末には公然と営業した。今日では、パーマや結髪などの美容術を行う施設を美容室とかビューティー・サロンと称している。

床屋は、散髪屋・理容店・理髪店の名称で親しまれている。その店頭には、細長い筒の中で赤と青の縞模様動く看板が置いてある。この色は動脈と静脈を表わすとの説があるが、それは間違いで、イギリスではじめてこの筒が掲げられた頃は、医学界では動脈と静脈の概念がまだ存在していなかった。単に良く目立つデザインだからだ。

「髪結いの亭主」と言えば女房の働きで生活している男のことが、今日では「紐（ひも）」と言う。なんと情緒のない言葉ではないか。

◇

オチは説明がある。床を踏むとは、金を払わないこと。畳屋は仕事柄、必ず畳（とこ）を踏むことも引つけている。

髪結いは、平安期の天皇の調髪に始まり、鎌倉期までは烏帽子（えぼし）の下の簡単な作業ですんでいた。だが室町後期以降は、露頭（ろとう）何もかぶらない（こと）や月代（さか



大人のための

文章教室

ライター・編集者 松本正行

ついついやつてしまう
述語の共有

イベントの詳細については揭示物か、係の者にお尋ねください。

本稿で何度も書いていますが、プロのライターでも「うっかりミス」はあります。例文のような間違いはその典型で、だからこそ読み直す際の、重点チェックポイントなのです。
例文では「揭示物」と「係の者」が「お尋ねください」という述語を共有しています。係の人に尋ねたら詳しく教えてくれるでしょうが、揭示物に質問しても返事はないでしょう。

イベントの詳細については揭示物をご確認いただくか、係の者にお尋ねください。

「揭示物」に対応する述語（ご確認いただく）を補うことで、文章が正確になりました。「趣味はゴルフとお酒を飲むこと」といった表現も話し言葉では許されるでしょうが、文に書く場合は「私の趣味はゴルフをすることとお酒を飲むこと」にしたほうがいいでしょう。
なお、「ギターも弾くし、ヴァイオリンも弾きます」のような文は述語をまとめたほうが読みやすくなります（「ギターも、ヴァイオリンも弾きます」）。共通の動詞を用いることができるときは「正確に」できるときは「すっきりさせる」を心掛けてください。

上町台地上にある高津高校出身。新聞社・出版社勤務を経て、現在、Webや雑誌等で活躍中。NPO法人「まち・すまいづくり」会員。